

平成25年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT25082

【プログラム名】自然は緑の薬箱



開催日：平成25年7月27日(土)

実施機関：東邦大学  
(実施場所) (東邦大学習志野キャンパス  
薬学部A館)

実施代表者：小池 一男  
(所属・職名) (薬学部・教授)

受講生：中学生:41名  
高校生:41名

関連URL：<http://www.phar.toho-u.ac.jp/event/medclass2013.ht>

【実施内容】

・受講者にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

- ①科研費の説明の際には、送付されたリーフレットを用い、参加者にわかりやすく説明を行った。
- ②実習プログラムは受講者の希望をもとに午前と午後で2つのコースを体験できるようにコース分けし、2人～3人が1組となって相互に協力しながら実習を進められるようにした。

・当日のスケジュール

夕方より天候が荒れる予報だったため、修了式について当初の予定より進行を早めて実施した。

- 9:30～10:00 受付(名札・白衣の配付)  
10:00～10:05 開講式  
10:05～10:15 「ひらめき☆ときめきサイエンス」の説明  
10:15～10:45 講義「自然は緑の薬箱」  
10:45～10:50 午前の部・スケジュール説明・諸注意  
10:50～11:00 休憩(トイレ・移動)  
11:00～11:55 午前の部・体験実習(前半) ※テキスト配付  
11:55～12:05 休憩(トイレ・水分補給)  
12:05～13:00 午前の部・体験実習(後半)  
13:00～13:55 昼食(学生食堂)  
13:55～14:00 午後の部・スケジュール説明・諸注意  
14:00～14:55 午後の部・体験実習(前半) ※テキスト配付  
14:55～15:05 休憩(トイレ・水分補給)  
15:05～16:00 午後の部・体験実習(後半)  
16:00～16:15 修了式(未来博士号授与・クッキータイム)  
16:15 終了・解散

・実際の様子

●講義「自然は緑の薬箱」



●実習①「果物中のビタミンCの測定」



●実習②「漢方薬を調製してみよう」



●実習③「解熱鎮痛剤を合成する」



●実習④「坐薬をつくってみよう」



●実習⑤「遺伝子鑑定-メダカのおス・メスの鑑定」



●実習⑥「注射薬を混ぜてみよう」



・どのコースも積極的に実験に参加する受講者の姿が多くみられた。

・事務局との協力体制

- ①学事統括部が学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正、委託費の管理と支出報告書の確認を行い、習志野学事部入試広報課で近隣の小学校に広報活動、受講生への連絡、名札の作成等の当日に向けての諸準備を行った。
- ②書類や資料を管理するフォルダを共有し、相互の協力体制を整えた。

・広報活動

- ①6月の段階から薬学部ホームページで実習の内容等を告知し、同時に申込み受付を開始した。
- ②A4判の案内チラシを作成し、近隣の高等学校400校程度に発送した。

・安全配慮

- ①受講者全員が1日間の傷害総合保険に加入した。
- ②実習の際は、1テーブルの人数を6名(3組)までとし、各テーブルに指導員(教員、大学院生、学部生)を1名以上配置した。
- ③午前と午後のそれぞれの実習の前に受講生を集め注意点を明確に指示した。
- ④受講者全員に簡易式白衣を配布した。

・今後の発展性、課題

- ①講義および実験に対し、意欲的に参加している受講生が多く見られた。
- ②中学生と高校生に同時に理解させるように説明するのは難しいとの意見もあり、グループ分けに工夫も必要である。

【実施分担者】

一場 秀章	薬学部・講師
中沢 克江	薬学部・講師
佐藤 忠章	薬学部・講師
加藤 恵介	薬学部・教授
日下部 太一	薬学部・講師
牧田 みどり	薬学部・准教授
黒田 潤	薬学部・助教
西口 慶一	薬学部・助教
木下 雅子	薬学部・講師
成末 憲治	薬学部・講師

【実施協力者】 \_\_\_\_\_ 19 名

【事務担当者】

林 誠司 学事統括部・課長